



「ワンナイトステイ」のホストファミリーになりませんか

市民の皆さんの国際交流への関心が高まる中、「もっと気軽にホームステイの受け入れができる」という声が寄せられることも多くなっています。

そこで、市民の皆さんが気軽に国際交流できる機会として「ワンナイトステイ」を紹介いたします。

◆ホストファミリーとは

ホストファミリーとは、海外から訪れたお客さんに自宅（ホーム）に滞在（ステイ）してもらい、飾らない等身大の暮らしでも



ホームステイ受け入れ体験談

関根泰信さん(下忍)

きっかけは、息子が所属していたボーイスカウトの大会が日本で開かれたことでした。日本語が全く話せないデンマークの男子学生3人が2泊し、戸惑うこともありましたが、身構えたり、過分にもてなしたりする必要はありませんでした。日本の家庭のありのままを体験してもらうことが一番喜ばれ、息子の成長にとっても素晴らしい経験となりました。

てなす一般家庭のことです。

近年、何かと話題に上ることの多い「民泊」とは違い、普段生活している自宅に泊めて寝食を共にすることで、文化の垣根を越えて交流を深めることができるのが特長です。

◆ワンナイトステイとは

県内には、独立行政法人国際交流基金が運営する「日本語国際交流センター」（さいたま市）があり、世界各地で日本語を教えるため外国人の先生などが、研修のため入れ替わりやって来ている。その数は毎年50カ国以上400人にも上ります。

ワンナイトステイとは、その研修カリキュラムの一環として

気軽に身近な

国際交流



ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催により、世界中の人たちとのつながりが増えることが予想されます。また、市内に住む外国人も少しずつ増加しており、国際交流への関心も高まりつつあります。ここでは、本市を中心とした国際交流の状況や取り組みなどを紹介します。

本市の国際交流の現状

本市には現在、外国籍の方が約1千500人暮らしています。国別では、ブラジルやペルーなどの中南米が最も多く、次いで中国、フィリピン、韓国などの順となっていますが、昨年4月に市内に日本語学校が開校したことにより、ベトナム出身の方も増加しています。

◆情報発信の多言語化など

海外から来た方の中には、日本語を読めない、話せない方も多いことから、市では、日常生活を送る上で必要となる情報を複数言語で作成したり、小・中学生向けに日本語学習支援を実施したりするなど、こうした方々の暮らしやすい環境の整備に努めています。



◆国際交流イベントの実施

市民の皆さんが国籍や文化の垣根を越えて交流できるよう、毎年、国際交流イベントを行っています。

これまで、料理や音楽、ダンスなどを通じた交流を図ってきましたが、昨年4月に「足袋蔵のまち行田」が日本遺産に認定されたことを受け、本年2月には、趣向を少し変えた内容として「日本遺産DE行田 Learning!」と銘打ったまち歩きを実施し、参加者30人が本市への理解と交流を深めました。

◆中学生海外派遣研修の実施

平成3年から始めたこの事業では、毎年約20人、延べ500人を超える生徒（3年生）をオーストラリアへ派遣し、現地の学生との交流やホームステイなどを通じて、多感な時期における国際感覚の醸成を図っています。

まずは登録窓口である地域づくり支援課へ問い合わせください。



その一言から始める国際交流

日頃、市内のさまざまな場所で外国の方を見かけることが多くなってきました。買い物に寄ったスーパーだったり、学校の同じ教室や病院だったり場面はさまざまですが、もし何か困っている様子があったときは、ぜひ声を掛けてみてください。その一言が相手の不安を軽くし、また、自らの国際交流に対する自信にもつながるはずです。

皆さんもぜひ、身近なところから気軽に国際交流を始めてみませんか。

▼問い合わせ 同課協働推進担当 (内線253)